

METAL WORLD



国際金属労連 (I M F) 季刊誌

ホワイトカラー 労働者を掌握する

特集 18ページ

No.2
2004

中国問題が議論の的に

中国が現在果たしており、今後も果たし続けるであろう役割が、金属労組における集中的論争のテーマになっている。

私が過去数カ月間に出席したほとんどすべての会議で、中国の問題が決まって各国製造業の将来に関する不安と結びつけて議論された。

中国は世界の製造業の中心地として浮上り、莫大な海外直接投資を呼び込み続けており、その額は2002年に530億米ドルに達し、なお増え続けている。これは、数千人分の雇用が全世界から中国に移動していることを暗示している。

ヨーロッパ、米州、アフリカ、アジアの金属労働者は、脱工業化や産業空洞化、中国への労働の移転に不安を感じ、労働組合が答えを示してくれることを期待している。

5月に開かれた前回の執行委員会で、私たちは中国について長時間討議した。2人の専門家が、この討議のための背景情報を執行委員会メンバーに提供してくれた。ストックホルム・アジア研究所のトム・ハート教授と香港のアジア・モニター・リソース・センターのアポ・レオン教授は、素晴らしいプレゼンテーションを行い、出席者からの質問や意見にも返答してくれた。

両教授は、中国を単なる巨大成長市場とみなすことはできないことを明確にした。中国は現在13億人の潜在的消費者を擁する市場を表している、と考えるのは間違いである。生活水準や労働条件に関して地域間・経済部門間の格差が非常に大きいと、中国を潜在的市場とみなしたがっている人々にとって、その実際の市場規模は消費者数で2億~2億5,000万人に縮小する。

中国製品を買う余裕がある中国人と、その余裕がない中

国人との格差は、最終的に一触即発の社会状況を生み出すおそれがある。これほど巨大な国にとって、そのような状況を抑えるのは不可能とは言わないまでも困難だろう。社会不安をコントロールできるのは、人々が自分たちの未来を決定できる民主的システムだけである。

労働組合の視点から見れば、中国が少なくとも一つの側面で論争の的になっていることに疑問の余地はない。すなわち、民主的世界の労働組合は中華全国総工会（ACFTU）とどのような関係を（もし結ぶとすれば）結ぶべきか、という問題である。ACFTUは中国共産党に支配されており、これまでのところ、国際的に認められた労働者・労働組合の権利を求める闘いに参加し、それらの権利を行使するために責任を持って打ち込むことを怠っている。

執行委員会では、国際金属労連（IMF）がこの問題にどのように取り組めるかを綿密に調べることが決定された。出発点は、すでにIMF加盟組織の多くが中国内外で多国籍企業の労働者を対象に計画している活動を調査することである。

これは適切なスタートだと思う。工場レベルの労働者に影響を及ぼすために、あらゆる可能性を探らなければならない。なぜなら、この巨大な国において小さくとも重大な変化をもたらすには、それが最も優れた最も現実的な方法だと私は考えるからである。



マルチェロ・マレンタッキ
IMF書記長
mmalentacchi@imfmetal.org

「メタル・ワールド」発行人：国際金属労連（IMF）

IMF住所：
P.O.Box 1516
54 bis, route des Acacias
CH-1227 GENEVA
Switzerland
Tel:++41 22 308 50 50
Fax:++41 22 308 50 55

IMFホームページ：
www.imfmetal.org

会長：
ユルゲン・ペータース

書記長：
マルチェロ・マレンタッキ
mmalentacchi@imfmetal.org

編集長：
ジェスパー・ニルソン
jniilsson@imfmetal.org



ニュース編集長：
キャサリン・リバス
klivas@imfmetal.org

グラフィックデザイン：
イングバー・ニルソン
マッツ・W・ニルソン

レイアウト：
ジェスパー・ニルソン
ATARロトプレス

印刷：ATARロトプレス

メタル・ワールドは年4回
英語で発行されます。

記事の意見は必ずしも
IMFの見解とは限りませ
ん

日本語版翻訳・発行者：
全日本金属産業労働組合協議会
（IMF-JC）

発行日：
2004年8月11日

目次

2004年・No.2



IMF ニュース

労働者の記念日

4月28日、ジュネーブで労働組合が集会を開き、「職場の事故と不健康は予防可能であり、労働者の安全衛生を尊重していない使用者に責任を負わせなければならない」という明確なメッセージを送った。

10



特集

ブラジルにはまだ希望がある

ルイス・イナシオ・ルラダ・シルバが、世界で5番目に大きい国、飢餓と大量失業に苦しむ国を統治するようになって18カ月が過ぎた。「私たちは我慢しなければならない」と、その昔すべてが始まった場所であるサンベルナルドで、ルラを支持する労働者階級の有権者たちは言う。

12



IMF スペシャル・レポート

増加するホワイトカラー雇用

非生産労働者の割合が着実に増加している。労働組合は、伝統的な中核職務を代表するだけでなく、依然として組織率が低い非現業労働者のニーズにも適切に応える存在であることを示さなければならない。

18



IMF プロフィール

トラブルメーカー、ヤン・ウーリル

ヤン・ウーリル氏は1989年に重工業会社の組合指導者に就任したとき、自分が目にした状況に慄然とした。同僚の行動を密かに見張って記録することが常習になっていたのである。「とても実態を人に話すことなどできなかった」と同氏は言う。

24

ワールドワイド 22 IMF 概要 23 カレンダー 23

遠大な志

本稿が掲載されるころ、カナダのモントリオールで第13回国際金属労連（IMF）編集担当者会議が開かれているだろう。この会議の成果の一つとして、初めてのIMFメディア・ディレクトリーを作成し、加盟組織のメディア手段とそれぞれのターゲット・グループ、発行部数、ウェブサイト訪問者数を列挙する予定である。そのための情報を収集する過程で、すでにメディアの多様性、野心、膨大な量の面で印象的な実態が明らかになっており、数十万部が発行される機関紙や週に数万人が訪問するウェブサイトもある。決まって出される質問は「それはどのような効果を生むか？」である。この問題に関して調査を実施している組合もあれば、読者の話に慎重に耳を傾けている組合もある。励みになる答えが返ってきており、おそらく「これ以上、印刷情報や組合ウェブサイトからのサービスはいらない」と言う読者は1人もいないだろう。

モントリオールでは、メディアで起こっている急速な技術的变化についても討議する。もちろん印刷物からウ

ェブに移行しているわけだが、印刷物がハイテク化し、多くの面でこれまで以上に廉価になっていることを忘れてはならない。そして、そう遠くない未来に両者が融合し、見た目や手触りは紙のようだが、オンライン・コンピュータとして機能する超薄型ソフト・スクリーンになるだろう。

ところで、『メタル・ワールド』は創刊5年目に入ってからかなり経ったが、今回、初めて表紙でホワイトカラー労働者を取り上げた。考えてみれば、これはあきれるほど遅い。一部の国や産業部門では、ホワイトカラー労働者が組合員の40～50%を占めており、今なお増え続けているのだから。



ジェスパー・ニルソン
編集長
jnilsson@imfmetal.org

加盟組織

フィアット・メルフィの賃金が他の自動車工場と同等に

メルフィ(イタリア): フィアット経営陣と、南イタリアのメルフィにある同社自動車工場ですトを実施中の労働者を代表する金属労組との合意が、労働者によって承認された。これにより、賃金と交替勤務パターンをめぐって3週間前から続いていた争議が終結した。5月17日に発表された公式の投票結果によれば、労働者の77.4%が協約を支持する票を投じた。

同工場の労働者は、実に12日連続にも達する勤務期間に抗議しており、賃金も他の場所のフィアット従業員より低かった。

新しい協約は月給を平均105ユーロ(126米ドル)引き上げることを定めており、この賃上げは2004年7月から何回かに分けて導入され、2006年7月にはメルフィ労働者の賃

金が他のフィアット工場の賃金と同水準になる。また労働者らは、もはや2週続けて夜勤に従事しなくてもすむようになり、連続勤務日数が10日に制限され、7日の休暇も追加された。

この争議で白熱した論争の的となったもう一つの問題は、メルフィ工場ですと前からとんでもない専断的な懲戒処分が実施されていたことだった。過去1年間に下されたそのような処分をすべて一時停止するとともに、調停委員会を復活させることについて合意した。

メルフィ工場は人気車種のプントとランチア・イブシロンを生産しているだけでなく、イタリアの他のフィアット施設に供給する自動車部品も製造しているため、このストライキは国内の大部分で同社の生産活動を妨げたとされている。

リパブリカでハンガーストライキ

ブカレスト(ルーマニア): 製管会社S・C・リパブリカSAの労働者は、政府が同社との民営化契約が解消されたあと義務を果たさなかったことに抗議し、4月1日以降2回にわたってハンガーストライキを実施した。

最初のストは、労働者に未払賃金を支払うという協約の締結によって終了した。しかし、この協約の実施が停止されたため、4月29日にルーマニア政府の民営化省の前で2回目のハンストが開始された。この抗議行動には65人も労働者が参加した。労働者らは、国際金属労連(IMF)に加盟するルーマニア全国金属労連(U-METAL)の傘下組織マラクサ労働組合に所属している。数年前、リパブリカが企業コンソーシアムに売却された

き、契約の規定によれば、購入者は工場です業活動を再開し、鋼管の生産量を増やし、総額210万ドルに上る未払賃金を支払うことになっ



ハンスト中の労働者たち

いた。しかし新しい所有者は、約束をすべて無視し、契約が解消されると労働者への未払賃金の支払いを政府に押しつけた。

IMFはルーマニア政府に対し、労働者に有利な解決策を見つめるよう強く要請している。

加盟組織

アーケル・ヤーズが事業を統合へ

ノルウェー/フィンランド/ドイツ：アーケル・クベナー・グループにおける再編成によって、三つの独立上場会社（アーケル・ヤーズ、アーケル・クベナー、クベナー）が設立された。これに伴ってアーケル・クベナーは、ノルウェーでの造船事業をフィンランドとドイツでの同社事業と統合する。

ヨーロッパ13カ所、ブラジル1カ所に造船所を所有するこの総合グループは、ヨーロッパ最大、世界第5位の造船グループとなる。

アーケル・クベナーのグループ事業再編に対する労働組合の反応は好意的である。ノルウェーのアーケル・ヤーズの主任職場委員は、この再編成を「積極的な措置」と呼ん

だ。フィンランドの金属労組メタルの造船セクション責任者も、これは正しい方向への一歩であり、一つのグループのもとで多様な造船所の事業がよりよく調整され、ノルウェーとフィンランドとドイツの造船所の間で「よりよい分業」が実現するだろう、との考えを示した。そしてデービッド・セリグソン国際金属労連（IMF）造船部会長も、「規模の小さいヨーロッパの造船所は、これまであまり競争力がなかった」と述べた。



ノルウェーのアーケル・ヤーズ造船所

アメリカン・アクスルで協約締結

デトロイト（アメリカ）：全米自動車労組（UAW）が組織化しているアメリカン・アクスル&マニュファクチャリングの労働者は、6,700人以上の労働者を対象とする4年協約を承認した。この協約は、労働者らが24時間ストを実施した末に締結された。

達成された成果は以下のとおりである。

5,000ドルの前払一時金

2%の業績手当

2005年、2006年、2007年に1,000ドルの休日手当

この協約で同様に重要なのは、工場を閉鎖せず、医療保障を維持するという規定である。

USWA がアルコアでの組織化活動を一時停止へ

ピッツバーグ（アメリカ）：全米鉄鋼労組（USWA）は、サウスカロライナ州マウントホリーにあるアルコア製錬所での時給労働者組織化キャンペーンを、不当労働行為および同社が合意した中立条項への違反を理由に一時停止する。

同労組によれば、アルコアは次のような行動を取った。

同労組に加入すれば工場を閉鎖すると労働者に話した。

同労組に加入すれば労働者をレイオフすると言って威嚇した。

組合活動の違法な監視を実施した。

労働者が同労組に加入すれば賃金を支払わないと言って威嚇した。

この組織化活動延期の決定は、同労組に加入するか否かに関して、もはや労働者が自由で公正な選択権を持っていないことを確認したうえで下された。USWAによれば、アルコアは「組合のない環境」諮問グループまで設置し、ピッツバーグの本社から組合潰しコンサルタントを直接派遣している。

IMF がボッシュと枠組み協約を締結

全世界：国際枠組み協約「ボッシュにおける社会的責任の基本原則」が、このドイツ系多国籍自動車・エンジニアリング会社、ボッシュ・グループ欧州労使協議会、国際金属労連（IMF）によって締結された。これはIMFにとって8番目の国際枠組み協約（IFA）である。

このIFAは、ボッシュ・グループ全体で、30カ国以上の数百家所で働く22万5,000人超の従業員を対象に実施される。

この協約の原則は、ボッシュにおける優先課題は「経済的目標の追求と社会・環境要因への配慮」とを結びつけることであると明記しており、国際労働機関（ILO）の中核的労働基準に基づいている。

このIFAには、結社の自由と団体交渉権、子どもの権利、職業安全衛生、機会均等、強制労働の拒否に関する規定が盛り込まれている。

この協約は、事業部門が自動車、産業、消費財・建築技術に分かれているボッシュ・グループ全体を対象としてい

るだけでなく、同社が基本的ILO基準に従わないサプライヤーとは取引ししないことも規定している。



ドイツ・フライシャッハのボッシュ工場

写真：ボッシュ

ボッシュの主要製造工場

ボッシュは30カ国以上に進出している。国別に分類した同社の主要工場所在地は以下のとおりである。

ドイツ：アプシュタット、アンスパッハ、アウグスフェルト、ハンベルク、フライシャッハ、ボクスベルク、ブラウンシュバイク、ビュール/ビューレラタム、タムシュタット、アイゼンナッハ、エルヒンゲン、フランクフルト/メイン、ゲッティンゲン、ヒルデスハイム、ボンブルク、ホルブアムネッカー、イメンシュタット、クステルディング、レオンベルク、メグリンゲン、ミュンヘン、ニュルンベルク、ロイトリンゲン、ロメルスパッハ、ルーテスハイム、ザルツギッター、シュピーベルディング、シュトゥットガルト・フォイエルバッハ、タム、パイブリンゲン、ウィッテン

オーストリア：ハレイン、リンツ、ウィーン

ベルギー：ブリュッセル、ラルピエール、ティーネン

チェコ共和国：プトバイス、イフラバ

フランス：アンジェー、ボーベ、ドランシー、ジュビンクール、レビエ、モンデビル（カン）、ムーラン、ボンデラルシェ、ロデーズ、サントワン、ベニシュ

ポルトガル：アブランテス、ブラガ、ピラリアル

ハンガリー：ブダペスト、ハトバン

イタリア：パリ、クレマ、ミラノ、オフアネンゴ、トリノ

オランダ：ティルブルフ

ポーランド：プロツラフ

ロシア：モスクワ

スペイン：アルカラデヘナレス、アランフェス、プエルナ、カステレト、ラカロリナ、リサ、マドリッド、パンプロナ、トレト

スウェーデン：アルジェブログ、イエーテボリ、キスタ、ノルヒューピング、バイトウデン

トルコ：ブルサ

イギリス：カーディフ、デナム、グレンロセス

メキシコ：アグアスカリエンテス、フアレス、サンルイスポトシ、トルカ

アメリカ：インディアナ州アルビオン、サウスカロライナ州アンダーソン、ミシガン州アンアーバー、ミネソタ州ボーデット、イリノイ州ブロードビュー、サウスカロライナ州チャールストン、テネシー州クラークスビル、ミシガン州ファーミントンヒルズ、ミシガン州フラットロック、サウスカロライナ州ファウンテンイン、テネシー州ギャラティン、テネシー州ジョンソンシティ、インディアナ州ニューカーライル、カリフォルニア州パロアルト、ペンシルベニア州ピッツバーグ、ケンタッキー州ラッセルビル、インディアナ州サウスベンド、ミシガン州セントジョーゼフ、サウスカロライナ州サマター、マサチューセッツ州ウォルサム、オハイオ州ウースター

アルゼンチン：ブエノスアイレス

ブラジル：アラトゥ、カンピナス、クリチバ、ポメロデ、サンパウロ

南アフリカ：ブリッツ

チュニジア：ベニ・カーレド

中国：北京、蘇州

インド：コラマンガラ

日本：東松山市等

マレーシア：ペナン

韓国：ブヨン、ソウル、テジョン、ヨンギン

オーストラリア：クレイトン

注：この表は、同社が進出しているすべての国または同社のすべての工場を示しているとは限らない。

出所：ボッシュ

GM 工場で労働組合権の侵害

グラバタイ (ブラジル): 国際金属労連 (IMF) はゼネラル・モーターズ (GM) 本社に対し、ブラジルのグラバタイにある同社自動車工場でGM 経営陣が取り続けている行動に関して抗議した。その行為の中には、結社の自由の否定が含まれる。IMF は、同工場の安全衛生保護状況に関しても懸念を表明した。

マルチェロ・マレンタッキ IMF 書記長は、5月19日に G・リチャード・ワゴナー・ジュニア GM 会長兼最高経営責任者に書簡を送り、この多国籍自動車メーカーが、同社グラバタイ工場の労働者が民主的に代表を決定できる自由で公正な選挙の承認を拒否していることに触れた。「IMF は、ポルトアレグレ金属労組が OECD 多国籍企業ガイドラインに基づいて申し立てた苦情を全面的に支持する」とマ

レンタッキ書記長は書いた。同労組は、IMF に加盟するブラジルの金属労組、全国金属総連合 (CNM/CUT) の傘下組織である。

マレンタッキ書記長は、同工場で労働災害に遭った労働者の不当解雇についても懸念を表明し、負傷した労働者の合法的な保護・権利すべてを確実に尊重するよう同社に求めた。IMF 書記長は、グラバタイの GM 経営陣は同工場の安全衛生条件に取り組むために措置を講じるべきだ、と述べた。

世界中の GM 事業の組合代表がゼネラル・モーターズ・アクション・グループの枠内で6月にデトロイトで会合を開くことになっており、ブラジルの状況をめぐって討議する予定である。

トルコ金属労組の組合員に嫌がらせ

ブルサ (トルコ): 国際金属労連 (IMF) 加盟組織であるトルコ金属労組からの報告によれば、グラマー AS シーティング・システムズのブルサ子会社で労働組合権の侵害が発生した。ドイツのアンベルクを拠点とする自動車内装部材 / システム・メーカーである同社は、ブルサ工場で労働組合の承認を拒否しているだけでなく、労働者64人を違法に解雇するとともに、未熟練労働者200人の新規採用に関して不当な行為を実施し、トルコ憲法とトルコが批准した国際労働機関 (ILO) 条約とによって保証された従業員の結社の自由の尊重を怠った。

3月26日、イスタンブールで同社とトルコ金属労組、トルコ労働組合総連合 DISK、ドイツの金属労組 IG メタルの代表が会議を開き、協約議定書に署名した。しかし、この協約の条文が「解雇された労働者を3月29日に復職させなければならない」「新規採用者を対象とする訓練を確立しな

ければならない」と定めていたにもかかわらず、経営側はこれに従わなかった。また、新規採用労働者とホワイトカラー従



業員は、別の労働組合への加入を強制された。この組合は、同工場のトルコ金属労組組合員を苦しめたり威嚇したりするだけでなく、暴行まで加えている。

IMF と多くの加盟組織がドイツのグラマー会長に抗議文を送ったところ、5月にトルコ金属労組から「解雇された労働者がようやく復職した」との報告があり、同労組はこれを「国際連帯の具体的な勝利」と呼んだ。しかし、同労組の承認を求める闘いは今も続いている。

労働者に組合脱退を強制

イスタンブール (トルコ): 3月の終わりにトルコ金属労組から入った報告によれば、鉄鋼会社チョラコールでは国際労働基準だけでなくトルコの労働法も甚だしく侵害されている。

トルコ金属労組によると、公証人が組合員の辞表を受け取るために工場に立ち入り、700人を超える労働者が強制的に組合を脱退させられた。そして、この公証人が辞表を集めている間、警備隊も立ち会った。経営側は、同労組が施設内に入ろうと試みたときには拒否していながら、対抗組合には立ち入りを勧めた。自分で選んだ組合に自由に加入する労働者の権利に対するこの侵害を受

けて、国際金属労連 (IMF) は法務・労働・内務各大臣に書面で抗議した。「この状況が変わらなければ、私たちはチョラコールにおける一連の侵害を国際労働機関 (ILO) に伝えざるを得ない」と IMF は述べた。

今なおチョラコールの正当な組合であるトルコ金属労組は、現在、この事件を裁判所に上訴している。「使用者が利用した手続きが違法だったことを証明したい」と組合スポークスマンは述べた。

トルコ政府は、1993年に結社の自由に関する ILO 条約第87号を批准した。

IMF 執行委員会で非現業労働者と中国が焦点に

ジュネーブ（スイス）：5月にジュネーブで開かれた2日間の国際金属労連（IMF）執行委員会で優先課題に挙げられたのは、非現業労働者の問題と、この分野におけるIMF方針・活動だった。

非現業労働者の問題はグローバルな課題になっており、執行委員会メンバーは、この問題に取り組む絶好のタイミングだと考えていた。現在の労働力構成はブルーカラー職務からホワイトカラー職務へと移行しつつあり、製造業はますます技術集約的になっており、この傾向は今後も続くに違いない。その一方で、これらの労働者の組合組織率は低い。

産業・職業構造の変化は労働組合にとって大きな課題となっているが、同時に機会を提供している。未組織労働者の組織化はIMFアクション・プログラムの中核にあり、労働組合の使命は伝統的な中核職務と非現業職務の両方を組織化し、双方の利益を代表することである。

IMFは非現業労働者の組織化の重要性を明確に理解し、この労働者集団を対象とする活動を全世界で強化するよう

勧告した（18ページのスペシャル・レポートも参照）。

中国の問題は、IMF執行委員会のもう一つの主要議題だった。

特別作業部会を設置し、IMFが主導・調整することが決定された。このグループの任務は以下のようなものになるだろう。

IMF加盟組織が単独で、もしくは他の組織と協力して中国で開始・実施する継続中の全プロジェクトに関する情報を収集する。

工場レベルの労働者および労働者組織と接触するために、さまざまな方法を模索する。

IMFが計画すべき活動に関して執行委員会に提案する。

ベラルーシの労働組合情勢に関して、執行委員会は、自動車・農業機械労組（AAM）のIMF加盟資格を直ちに停止すること、2005年5月に開かれるIMF中央委員会に同労組の除名を勧告することを決定した。

IMF執行委員会の次期会合は12月開催の予定である。

ILO が中国について勧告

ジュネーブ/中国：国際自由労連（ICFTU）と国際金属労連（IMF）が中国政府による結社の自由原則の侵害に関して国際労働機関（ILO）に苦情を申し立てたことを受けて、ILO結社の自由委員会が勧告を出し、この勧告は2004年3月のILO理事会で採択された。

2002年3月に申し立てられたICFTU / IMFの苦情の告発は、当局が独立労働者組織の幹部・選出代表・組合員に対して抑圧的な措置を講じていることに関するものだった。

IMFが特に懸念していたのは、中国北東部の遼陽（リャオヤン）にある合金鉄工場の独立金属労働者代表らが、未払賃金・給付をめぐる平和的な労働者の抗議行動に参加したことを理由に逮捕され、その後「違法集会」と「国家権力の転覆」で告発された事件だった。これらの金属労働者代表のうち2人、ヤオ・フシンとシャオ・ユンリャンは2003年5月に過酷な長期刑を言い渡された。

ILO結社の自由委員会は報告書の中で、「中国で拘留されている労働組合活動家が、他のすべての人々と同様に通常の裁判手続きから利益を受け、正当な法の手続きを経る権利を与えられるようにすべきだ」と勧告した。

同委員会は中国政府に対し、2人を直ちに釈放するために必要な措置を講じるとともに、特に合金鉄工場でのデモに警察が暴力的に介入した



秦皇島（チンホワンタオ）の中国人労働者

とする申し立てに関して、以前から求められていた独自調査を開始するよう改めて強く要請した。

同委員会の勧告の最終パラグラフは、次のように述べている。「当委員会は、情報や行動を求める数多くの要請が未処理のままであることを踏まえ、自由で独立した労働組合と使用者団体の発展は社会的対話のために、また、政府が社会・経済問題に立ち向かい、労働者や国民に最大の利益を与える形で諸問題を解決できるようにするために不可欠であると確信して、中国政府に対し、直接介入ミッションに関する先の提案に積極的に対応するよう改めて強く要請する」

IMF が新しい自動車部門レポートを発表

ジュネーブ：国際金属労連（IMF）は、6月8～10日にアメリカのディアボーン（ミシガン州）で開かれたIMF世界自動車協議会に合わせて、グローバル自動車産業に関する大変待ち望まれた新しいレポートを発表した。この70ページの出版物は『2004年IMF自動車部門レポート』というタイトルで、以下の各章で構成されている。

労働組合の課題と戦略

中国の自動車部門

生産概要

雇用傾向

自動車販売台数の地域的側面

「IMF自動車部門レポートの目的は、グローバル自動車産業の状況に関する共通の認識、この部門の金属労働者が直面する課題、労働組合の対応方法を形成することだ。この情報が方針の立案に役立ち、金属労働者とその地域社会に利益を与えるよう願っている」と、マルチェロ・マレン

タッキIMF書記長はレポートの序文で述べている。

2000年に前回の自動車部門レポートが発行されて以降、中国がアメリカ、日本、ドイツに続いて世界第4位の自動車生産国になった。その結果、この前例のない事態の展開を取り上げるために、「中国の自動車部門」が独立した章として設けられている。



4カ国語で作成

この出版物は英語、スペイン語、ドイツ語、フランス語で作成され、IMF加盟組織に配布されており、IMFウェブサイトからダウンロードすることができる。

先ごろ開かれたIMF世界自動車協議会とこの自動車部門レポートについては、9月末に発行予定の『メタル・ワールド』次号で詳しく取り上げる予定である。

代替的戦略を提出

全世界：代替的経済プログラムの立案は、2001～2005年国際金属労連（IMF）アクション・プログラムでIMFと加盟組織の主要優先課題となっている。この話題については世界レベルで開かれる多くのIMF会合で徹底的に討議しており、代替的経済プログラムのあるべき姿を正確に説明・定義しようと目指している。

このプロセスの総仕上げとして、2003年12月にケープタウンで開かれたIMF中央委員会で『代替的グローバル化に関するIMF戦略』という文書が発表された。この文書は、IMF内部での討議・討論から生まれた代替的経済プログラムの4本柱を明確に説明している。この文書が中央委員会に提出されたのは、プログラム案の価値について改めて討論するための誘因としてではなく、プログラム実施戦略について合意するためだった。

この文書は序文でケープタウンでの討議を概説しており、現在、英語版、フランス語版、ドイツ語版、イタリア語版、スウェーデン語版が作成され、全加盟組織に配布されている。IMFウェブサイトからダウンロードすることもできる。これらの戦略を広める目的は二つある。すなわち、合意された代替的経済プログラムと同プログラムを促進するための戦略とを加盟組織に示すことと、それ以上に重要なことだが、加盟組合内部で討論を促進し、戦略的目標を推し進める具体的な行動を生み出すことである。



IMF がマドリードでの爆破テロを非難

マドリード（スペイン）：国際金属労連（IMF）は、3月11日マドリードで発生した言語に絶する爆破テロを受けて、世界中の金属労働者によるスペインの同志への同情と全面的な支援・連帯を表明した。

「一連の事件に深い悲しみと恐怖を感じて愕然としており、これらの卑劣な攻撃で亡くなったり負傷したりし

た多くの罪のない人々に、IMF全体の心からのお悔やみを申し上げたい」とマルチェロ・マレンタッキIMF書記長は述べた。「IMFは、犠牲者の大部分が労働者や学生、移民だった一連の計画的な攻撃を口を極めて非難する。表現の手段としての暴力は常に非難しなければならない」

4月28日は労働者の記念日

ジュネーブ（スイス）：「死傷労働者の国際記念日」である4月28日、ジュネーブに本拠を置くグローバル・ユニオン・フェデレーション3団体が、国連諸機関事務所のすぐ外にあるプレイス・デ・ネーションズで開かれた集會に参加した。

この行事は国際食品関連産業労働組合連合会（IUF）が、国際金属労連（IMF）と国際建設・林産労組連盟（IFBWW）の参加を得て計画した。

集會で演説したのは、ポール・アンデラIUF会長とIMF加盟組織であるスイス産業・建設サービス労組（SMUV/FTMH）から参加したアルフィエロ・ニコリーニ氏だった。

このジュネーブでの集會には100人以上が参加し、「職場

の事故と不健康は予防可能であり、労働者の安全衛生を尊重していない使用者に責任を負わせなければならない」という明確なメッセージを送った。過去1年間に死亡した労働者を悼んで、公式に2分間の黙禱を捧げた。

グローバル・ユニオン・フェデレーション3団体は、虐待的な安全衛生条件をなくすために努力している。例えばIMFは、インドで船舶解撤労働者の基本的な問題に取り組むプロジェクトを実施しており、労働者らに不可欠なサービスを提供するとともに組織化の動機を与えている。

船舶の解体は、最も労働集約的で危険な仕事の一つである。この非常に危険な船舶解撤産業は、インドだけで16万人を超える労働者を雇用している。



集會で演説するSMUV/FTMHのアルフィエロ・ニコリーニ氏



ジュネーブで開かれた集會の参加者たち

ブラジル政府がアスベストを禁止へ

ブラジリア（ブラジル）：2004年3月末、ブラジル政府は、アスベスト禁止を決定し、この物質に関する過去の国家政策・慣行を転換することを発表した。この禁止はまもなく導入され、どのような措置を講じる必要があるか調べるために委員会が設置されると予想される。

正しい方向への一つの措置は、ブラジルで植物性の物質を利用してファイバー・セメントを生産する新工法の特許が認められたことである。すでに各社は、この技術を利用して、例えば貯水槽や波形スレートを生産している。

サンパウロ市は、アスベストとの闘いにおいてブラジ

ルで初めて良き手本を示した。すでに2001年3月、同市議会は建築・建設工事でのアスベスト使用を禁止する法律を満場一致で承認していたのである。

仕事や家庭でアスベストにさらされると命にかかわる病気につながるということが知られており、大勢の人々が死亡し、恐ろしい被害が広がっている。アルゼンチン、チリ、オーストリア、ベルギー、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、イギリス、イタリア、オランダ、スウェーデン、オーストラリアなど全世界で30カ国を超える国々が、すでにアスベストの使用・販売を禁止している。

NUMSA が新ウェブサイトを開設

ヨハネスブルク（南アフリカ）：南ア最大の金属労組である南アフリカ全国金属労組（NUMSA）は、5月1日に最新のウェブサイトを開設した。

「NUMSAは、ウェブサイトの情報が古くなり、見た目も退屈になり、フレームワークが扱いにくくなったため、数年前からワールドワイド・ウェブを利用していなかった」と同労組は記事の中で述べた。

NUMSAはウェブサイトの刷新が必要だと判断したとき、以下のように多様な利用者を考慮に入れなければならなかった。

次第にインターネットを利用できるようになっているNUMSA組合員、職場委員、国内外のその他の労働者

労働者による労働組合の選択についてもっと知りたがっている使用者

南アフリカの労働組合に関する情報に興味を持っているジャーナリストや学生

国内外の非政府組織

新しいウェブサイトの内容は、南アフリカおよび世界の金属産業からのニュース項目、最新のNUMSAプレスリリース、方針、NUMSAに関する最新情報、詳しい連絡先、フォトギャラリーなどである。このサイトには、NUMSAの内部出版物である『NUMSAニュース』と『NUMSA会報』から抜粋した記事も掲載されている。

機械・自動車雇用サミット用に特別に作成された背景調査報告書をダウンロードすることもできる。

訪問者には、Eメール・ニュースレターを継続的に受け取るよう登録を勧めている。このニュースレターによって、



購読者に最新情報や重要な発表を知らせることにしている。今年9月の第7回NUMSA全国大会では、会場から直接ウェブサイトを更新する予定である。www.numsa.org.zaでサイトをご覧いただきたい。

.....アミカスも安全衛生セクションを導入

ロンドン（イギリス）：イギリスの民間部門・製造業で最大の労働組合組織であるアミカスは、ウェブサイトに新しい安全衛生セクションを開設した。このセクションでは、安全衛生に関するニュースや出版物、その他の資料（他の

安全衛生サイトへの網羅的な役立つリンク集など）を見ることが出来る。



www.amicustheunion.org/main/asp?page=38



ブラジルには まだ希望がある

ルラはブラジル大統領になった元旋盤工である。彼が世界で5番目に大きい国、飢餓と大量失業に苦しむ国を統治するようになって18カ月が過ぎた。「私たちは我慢しなければならない」と、その昔すべてが始まった場所であるサンベルナルドで、ルラを支持する労働者階級の有権者たちは言う。

文：ハラルド・ガトゥ

写真：R・スタッカート、A・マシエル



特集

ブラジル

私たちは首都ブラジリアにある大統領官邸で、しばし会談した。ルラは大勢の護衛と文官に囲まれ、側近たちは「質問はだめだ、分かったか？ 一つも質問してはならない」と強い口調で言った。

私たちが最後に会ったのは15年前、ルラがストックホルムで、当時のスウェーデン金属労組書記長レイフ・プロムベルグを訪問したときのことだった。レイフはルラを「ナイスガイ」だと思った。

当時、ルラは小規模で革新的だが急成長していた労働党の指導者で、初めての大統領選に臨もうとしているところだった。

現在、彼はひげをきちんと手入れし、帽子を脱ぎ、体をゆずって歩くようになり、政治家の服を着たテディーベアのような。体が大きくなり、声が暗くなり、世界で最も不平等な国で社会を変革するという実現不可能な使命を担っている。

ルラは4回目の出馬で、やっとブラジル大統領の座を勝ち取った。彼が目標を達成したとき、フェルナンド・エンリケ・カルドソ前大統領に対する一般大衆の不満は、ブラジルの中流階級にまで広く行きわたっていた。2度の大統領選でルラを破ったカルドソは、ブラジルをネオリベラル実験室に変え、公有財産を民営化するとともにグローバル資本を大歓迎した。カルドソは、1,000%というインフレ率の解消、旧貨幣の駆除、米ドルにリンクした新しい通貨の導入を目指して硬貨政策を実施した。

だが問題は、米ドルが1990年代のハード・カレンシーになったことだった。グローバル金融市場は、ブラジルがドルに固定された為替レートを守るかどうか疑問視し、投機を開始した。カルドソ政権は金利を世界最高水準に保って身を守ろうとしたが、ある日、すべてが崩壊した。産業雇用の3分の1が消滅した。ブラジルの活気に満ちた近代的な金融センターであるサンパウロ州では、5人に1人が失業している。リオ市が街路清掃職で1,000人を募集したところ、16万人から応募があった。

絶え間ない混乱

これが、ルラが引き継いだ国、絶え間ない混乱に陥った国である。飢えに苦しむ土地を持たない人々は、破れかぶれでリオデジャネイロやサンパウロのスラムに移住する。そこでは、上流階級の人々が贅沢三昧に暮らし、門と塀で囲まれた住宅地に不安げに隠れ、武装した護衛とレーザーワイヤーと最先端の警報システムに守られている様子が容易に目に入って来る。

この国では、一つの都市（リオデジャネイロ）だけで、4年間に4,000人の子どもたち（主にストリ

ート・チルドレン）が射殺された。この数字をイスラエル-パレスチナ紛争と比較してみるべきである。同じ期間に、この暴力的紛争の犠牲となって殺害された子どもの数は400人だった。

ブラジルが絶え間ない混乱に陥っていることは、毎日、大地主に雇われた射撃の名手である民兵たちがパトロールする敷地に、土地を持たない人々が入り込もうとするのを見ればよく分かる。

この壮大な国は、かつてポルトガルの航海者を引きつけ、国名の由来となったブラジル木の赤い色は新興のヨーロッパ繊維産業に染料を供給した。この国は、500年間にわたってエリート層に支配されていた。エリートたちは、かつて数百万人のアフリカ人奴隷をプランテーションや炭鉱に押し込み、その後ずっと鞭や弾丸、資本によって統治してきた。この荒廃し腐敗し疲弊した国は、2年近く前の10月のある日、エリートを排除し、代わりに元旋盤工を大統領に、人口1億8,200万人の国の指導者に選ぶことを決定したのである。

まったくの偶然

サンパウロ市周辺の郊外には、1960年代、1970年代に軍事独裁政権が低賃金と若く健康な労働者を提供して誘致した工場が乱立している。

世界中の人々が、新興産業と万人を驚かせた経済開発ペースによって達成された「ブラジルの奇跡」を話題にした。この「奇跡」のおかげで訓練の実施が可能となり、ルラのように学校教育を受けていない子どもたちが工作機械工になることができた。

ルラが労働組合にかかわるようになったのは、まったくの偶然だった。兄のフレイ・チコはアングラの共産党で活動しており、弟にサンベルナルド金属労組の話をした。「弟は幼いし、組合が好きではなく、何も知らないが、いずれにせよ加入するかもしれない」と考えたのである。

兄に加入の意思を聞かれたルラは、怒ってこう答えた。「いや、僕は組合に入りたくない。組合に入るのは、ろくでなしばかりだ」。軍事独裁政権下では、労働組合は正常な環境で占めるであろう地位を占めない。組合は無意味な存在であり、独裁者の危なっかしい従順な手先だった。賃金交渉など問題外だった。ルラを転向させた人物は、左翼活動家のアフォンソだった。アフォンソが話をすると、ルラは耳を傾けた。アフォンソは博学でまじめで誠実だ、と

考えていたのである。ルラは組合に入り、まもなくサンベルナルド支部の書記になった。

1978年5月の霧深い雨の日に、南半球に秋が訪れた。だが、ブラジルの職場は暑い季節を迎えよう

ブラジルに関するデータ

人口：1億8,200万人
首都：ブラジリア
IMF加盟組織：全国金属総連合(CNM/CUT)
全国金属労働者総連合(CNTM)

特集

ブラジル

としており、サンベルナルドにあるスカニアのトラック工場ですべてが始まった。当時そこにいた人々は、今もそのときのことを覚えている。

そのうちの1人は、当時28歳のエンジニアリング労働者、ジョアン・ボスコだった。フォード、トヨタ、クライスラー、メルセデス、労働者3万人の巨大なフォルクスワーゲン工場、そしてスカニア 全ての自動車工場が沸き立っていた。各工場の労働者は、経済的奇跡の分け前を要求していた。

スカニアの少数の労働者だけが、この日、ストライキの指令が出ることを知っていた。ボスコは、当時の出来事を覚えている。「私たち数名は前日の夜10時にだれかの家に集まり、戦術を練った。翌朝7時40分、休憩時間に、私たちは互いに『今だ!』とささやき合った。そしてスカニアは休憩後に活動を停止した」

1~2時間後、憲兵隊が工場を包囲した。工場前の騒がしい群集の中で、帽子をかぶったあごひげの小柄な男が、人ごみの中を押し分けながらスカニア工場周辺の手すりのところまで行き、ヤシの木の向こうの静まり返った工場を見やった。スト参加者のスポークスパーソンを務める金属労組の書記、ルイス・イナシオ・ルラ・ダ・シルバが到着したのである。

彼は職場委員の典型的な仕事、賃金交渉のためにやってきた。

ルラがフェンス越しに静まり返った工場に目を向けると、それが行動の口火を切った。工場が次々に作業を停止し、まもなく8万人のエンジニアリング労働者がストに入った。労働者らはサンベルナルドのフットボール・スタジアムを埋め、そこでルラはマイクを握った。

「あの時、あの場所で、ルラは初めて指導者として頭角を現した」とボスコは言う。

2人は顔見知りで、一緒に労働組合訓練セッションに出席したことがあり、家も近所だった。「彼はいい奴で、話がうまく、面白くて聡明だった。良き友人だった」。しかし、将来の大統領だと? 「いやいや、とんでもない! 当時はだれも、そんなこと考えもしなかった」

ストのおかげで金属労働者は25%の賃上げを勝ち取り、自信もつけ、自分たちの力を認識した。

新しい政党

翌年の夏、ルラは1人の友人とサンパウロ中心部のルア・バラン・デ・イタペティニンガ通り沿いの木陰に座っていた。ここで彼は初めて、新党・労働党の構想を示唆した。ルラが望んでいたのは、金属労働者が設立する政党、新左翼のセクトではなく、社会主義を求めるすべての人々を受け入れる幅広い基盤に立つ開放的な政党だった。彼らは共産主義の独裁を明白に拒絶した。彼らが確立したいと



ルラが初仕事(ピーナツとオレンジの販売)をしたサントスの浜辺で



かつてルラの近所に住んでいたジョアン・ボスコ:「1978年には、ルラが将来大統領になるとは、だれにも予想できなかった」

考えていたのは、新しい何かだった。この構想は、産業労働者、土地を持たない農民、そして特にカトリック教会の急進的な聖職者から、たちまち支持を得た。

サンベルナルドの教会の外にはマトリス広場があり、そこから下っていくと車が行き交うメインストリートがある。この広場の周囲にはマンゴーとヤシの木、それに実がチャツネ作りに使われるタマリンドの木がある。夕方の広場は静かだ。静寂を破る声は、愛し合うカップルの忍び笑いだけである。暗く湿っぽい夜に、教会から聖歌隊の歌声が聞こえてくることがある。ここはルラが、このカトリック教会で左翼運動を推し進める解放の神学者たち、労働者を支援する急進的な聖職者や司教と知り合った場所である。毎年5月1日には、ここで「労働者階級のミサ」が開かれ、ルラは今も参加している。

ルラは警察に追われていたとき、この教会に隠れていた。労働組合事務所が破壊され、組合活動家が会合に使って

特集

ブラジル



スカニアの労働者リラは言う。「私たちは我慢しなければならない。ルラは国家だけを運営しているのではない」

たバーが警察によって閉鎖されると、労働者たちは代わりにこの教会に集まるようになった。警察も立ち入ることはなかった。

この日、教会管理者のジャルマ・フェレイラが教会の裏手に愛車のフォード・エスコートを停めて修理していた。雨が降る中で、彼はブレーキシューをチェックしている。私たちは内気で交際嫌いのジャルマと一緒に教会のホールに入り、当時の出来事について聞いた。

「初めて労働者たちがここへ来たときのことを覚えている。警察が彼らを追いかけ、警棒で激しく殴っていた。労働者たちに犬をけしかけ、催涙ガスを発射していた。恐ろしい出来事だったが、労働者たちは難を避け、警察は労働者だけをここに残して去って行った」

ジャルマは、ルラと労働組合活動家らを守ったことに対して、控えめながら明らかに誇りを持っていた。彼はさりげない言葉を使う。自慢する必要は感じていないのである。

もちろん、彼は5月1日には労働者のミサのために教会において、ルラを歓迎する。ルラはいつも彼のところにやってきて、背中を軽くたたいて「やあ、ジャルマ、万事うまくいっているかい？」と言う。

「彼は歴史的に重要な人物だ。労働組合が十分な力を持

っていないことに気づくと、彼は労働党を創設した。ルラは物事を変える運命にあったと思う。彼は人々に話をしたり、交渉したりするのがうまい」

5月1日に彼に何を話しているのだろうか？ 「いつも彼の幸運を祈る。何としても成功してもらいたい」

教会からそう遠くない場所に、ABCタウン（サンアンドレ、サンベルナルド、サンカエターノ）工業地帯の金属労組事務所、ABC金属労組がある。何なら、この建物での活動を、ブラジルのこの地域で労働組合運動がどれだけ進んでいるかを測る基準とみなしてもいい。会議室は次々に研究グループで埋まり、統計部はさまざまな工場から賃金に関するデータを集めている。ジャーナリスト集団である広報部は、9万人の組合員を対象に発行される4ページの日刊紙のために、今日の記事を書き上げるのに忙しい。

同労組執行部メンバーのエリンホ・オラトが、一つの部屋に私たちを迎え入れてくれた。ここはルラのかつての組合事務所である。エリンホはルラの就任1年目を好意的に見ている。「私たちは現在、政府の政策に関してどのような立場を取るかについて討議している。二つの重要問題に注目している。すなわち、インフレ率が低いことと、ルラがブラジルを再び国際舞台に押し上げたことだ。いくつか

重要な改革も実施されているが、さらに変革を推し進めて個人のために労働組合権や労働法を強化することを期待している」

都市ゲリラ

サンベルナルドのルア・ジョアン・パツにある組合事務所からブラジリアの大統領官邸までは、ずいぶん距離がある。官邸は上品で近代的な名所で、多くのコンクリート製アーチとガラス窓があり、この建物を見ていると40年以上前に連れ戻される。当時、月旅行によって想像力が広がり、特にブラジルの奥地に新たに建設される首都を立案する任務を委ねられた建築家が、その影響を受けたようである。

この官邸は2年近く前に、やや自意識過剰だが笑みを絶やさないルアの住居になったが、この政権は過去にブラジルで樹立されたどの政権にも似ていなかった。首相は、かつてアメリカ大使を誘拐した小さな都市ゲリラ・グループの一員だったが、獄中で数年にわたって拷問を受けた末に別の政治路線を取るようになった。環境大臣は、アマゾン流域奥地のゴム樹液採集者一家の出身で、竹造りの小屋で生まれ、10歳でゴム樹液採集者として働き始め、ようやく読み書きを覚えたのは16歳になってからのことだった。土地改革大臣は、土地を持たない人々の運動出身の左翼革命家である。文化大臣のジルベルト・ジルは、ラテン・アメリカ屈指の有名な歌手で、1970年代の独裁政権時代を獄中で過ごし、ルラと同様にブラジル北部の貧困地域の出身である。

彼らは一丸となって、絶え間ない日常的混乱に苦しむ国を主導していかなければならない。

土地改革の実施が始まる日に、何が起こるだろうか？ 現在、大地主に雇われたギャングが、腹をすかせた無断居住者に拳銃を向けている。そして明日は？ ルラはどの程度安全なのだろうか。そして彼は、国民がしびれを切らしたら、この状況にどう対処するのだろうか？ 多くの人々が急激な変化を要求しており、急進的な党の綱領に厳密に従うことを期待している。

ルラはブラジルが資金不足に陥ったときに、約束どおり飢餓との闘いに勝利を収めるだろうか。アメリカとEUがブラジルの果物や野菜に高率の関税を課したら、ブラジルはどうやって収入を得るのだろうか。ますます多くの耕作地が欧米の食肉工場向けの大豆を作るために利用され、利益が多国籍企業に流れるようになれば、国民はどうやって食糧を確保するのだろうか？

これらはスカニア工場のエンジニアリング労働者の多くが討議した問題である。

彼ら自身の生活は、1978年の重要な歴史的ストライキの

あと、徐々に改善へ向かい始めた。スカニアの労働者は、他の自動車工場の労働者よりもかなり収入が多い。スカニア労組の権利は、大多数の組合よりもはるかに充実している。地方組合支部の小さな事務所では、スウェーデンのセーデルテリエにある親工場の同僚から贈られた横断幕と絵が、一番いい場所に飾られている。

労働者たちが列をなして部屋に入ってきて、ルラの就任1年目をどう思うか話してくれた。アマデウ、ニノ、ジョナス、ジャニオ、マルコス、アンセルモ、ウィルソン、シルビオ、バルデシ、そして年老いたリラである。次々に人が入ってきて、その数は20人ほどになった。全員が、あの日ルラが4回目の出馬で大統領選に勝利した2002年10月27日のことを私たちに話したがっていた。

彼らは自分たちの希望についてだけでなく、困難な状況や、ブラジルを冷徹に支配する「金融テロ」、支出が収入をはるかに上回るブラジルが国庫のために融資を受ける条件として、新たに厳しい要求を突きつけている世界銀行・国際通貨基金についても話した。忍耐が必要であること、ルラが国家だけを運営しているのではないことも指摘された。彼は過半数を確保するために、右派政治家と提携した。

「私たちは大統領ポストを勝ち取ったが、権力は得ていない」とスカニア労働者の1人は言う。「ルラは社会主義者だが、これは社会主義政権ではない。それを忘れてはならない」

偉大なプロジェクト

ルラの旧友で近所に住んでいたジョアン・ボスコも、1978年の重要なストライキに参加した。ルラはこの任務を何とか処理することができるだろうか？

「ルラは労働者階級の代表であり、労働者階級の希望でもある。これは偉大なプロジェクトだ。実はルラ個人に関する問題ではなく、この偉大なプロジェクトが成功するかどうかの問題なのだ」

この偉大なプロジェクトは、世界で最も不平等な国をより公平な社会に変えようとするものである。ルラは、自分自身と政府に託された希望を知っている。それに、時間がなくなりかけていることも知っている。次の大統領選は2年後に実施される予定で、彼はそれまでに少なくとも一つの約束、すべての市民が1日3食を食べられるようにするという約束を果たしたいと考えている。

すでに述べたように、私たちが慌ただしく会見した大統領官邸は、近代性を象徴してはいるが、何もかもが変わらない国の人々の意思を表しているとも考えることもできる。

ほんの数分間、少し話をした後、彼は側近の護衛や文官とともに去っていった。ルラは明らかに先を急いでいる。

グローバル化のホワイトカラー化

現在の労働力構成がブルーカラー職務からホワイトカラー職務に移行する中で、労働組合は組織化に当たって大きな課題に直面している。労働組合は、伝統的な中核職務を代表するだけでなく、依然として組織率が低い非現業労働者のニーズにも適切に応える存在であることを示さなければならない。

アンヌ＝マリー・ミュロー著

過 去数年間に雇用の職業別構成に見られる大きな変化は、ブルーカラー職務からホワイトカラー職務へのシフトである。技術革新によって、職場の性質と人々に期待される労働・技能の性質が変化した。製造業がますます技術集約的になり、新しい高付加価値製品への需要が増えているため、この傾向はさらに加速すると予想することができる。

このレポートの後半で、この事態の展開が金属労組に突きつけている課題を改めて取り上げる。だが最初に、この傾向を分かりやすく示す事例をいくつか紹介する。

アメリカでは、総雇用者数に対する非生産労働者の割合は、緩慢ではあるが着実に増加している（次ページのグラフを参照）。「航空機・航空機部品」部門と「コンピューター・電子製品」部門では、この割合は現在それぞれ53%、45%に上っている。

ドイツでは、グラフに示されるように、現在、総雇用者の過半数が非現業職務に従事している。特に金属産業では、この数字は1990年代初頭の34%に対して今では40%に達している。フランスでは、金属産業のエンジニアと専門職の割合が過去15年間に倍増した一方で、生産労働者の割合は5%減少した。日本でも同様の展開が見られ、非現業労働者は金属産業の総雇用者数の45%前後を占めている。二つの部門では（グラフを参照）、非現業雇用が50%をかなり上回っている。

非現業職務は全般として増加傾向にある。新技術の導入、貿易パターンの変化（低賃金国との競争激化や市場圧力の強化など）、作業編成の変更に起因する上述の技能要件の変化は、今後さらに目立つようになるだろう。

全IMF加盟組織にとっての問題

非現業労働者は、先進国の組合だけの問題ではない。「グローバル化のホワイトカラー化」と、先ごろ『ビジネス・ウィーク』誌は表現した。今や、あらゆる種類の知識

労働や熟練労働を、ほとんどどこでも実施することができる。企業は組立作業のアウトソーシングに続いて、上級職務（例えば基礎研究、チップ設計、エンジニアリング）を低賃金国、特に教育水準の高い熟練労働者が大量に存在する国に移転させている。

例えば以下のような状況が見られる。

IBMとモトローラはソフトウェア設計職務をインドに移している。

ボーイングは資格を要する職務をロシアに移転し、現地で航空宇宙エンジニアを採用した。

GMはホワイトカラー労働をインドにアウトソーシングしている。

アルカテルは研究開発活動をチュニジアに移している。フィリップスは、ほとんどのテレビ、携帯電話、オーディオ製品の研究開発をインドに移転した。

同様に、韓国と台湾も重要な研究開発・サービスの中心としての地位を築きつつある。

低い組合組織率

非現業労働者が総雇用者数に占める比率は上昇しているが、このカテゴリーの組合活動は依然として弱い。ほとんどの国で、一般に非現業労働者の組織率は低めである。特にIT部門では、組合組織率が非常に低い。国際金属労連（IMF）に加盟する多くの産別組合の組合員総数に占める非現業労働者の割合は、10～15%程度である。

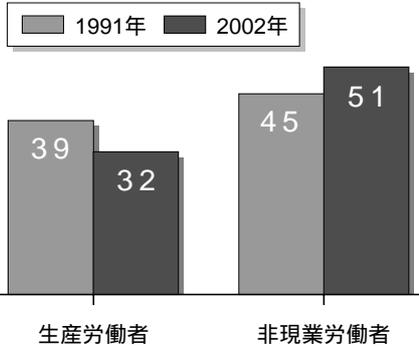
これは一つには、非現業労働者側の態度が他の労働者とは異なっており、一般に個人主義的色彩が強く、組織化や集団的支援をほとんど重視しない傾向が見られるためである。また伝統的に、ほとんどの組合が、組合員の大部分を占める生産労働者の組織化とその利益の促進とを重視し、伝統的拠点の外部にいる労働者に適切に注意を払っていないことも一因となっている。そのうえ使用者は、現業労働者の組織化よりも非現業労働者の組織化に、より強く敵意

IMF スペシャル・レポート

ホワイトカラー労働者

ドイツ

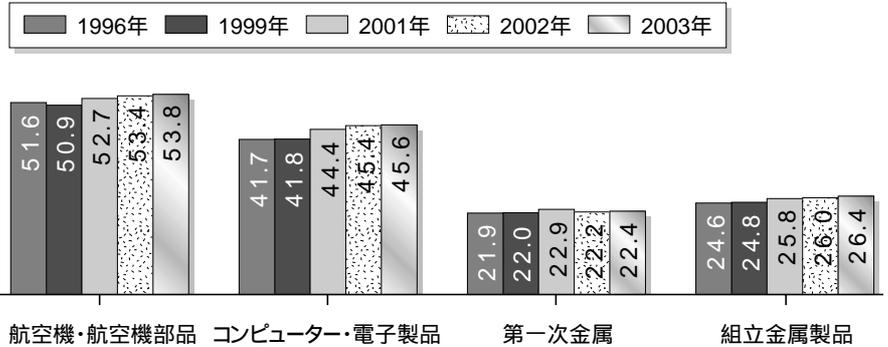
就労者に占める割合 (%)



出所：IGメタル

アメリカ

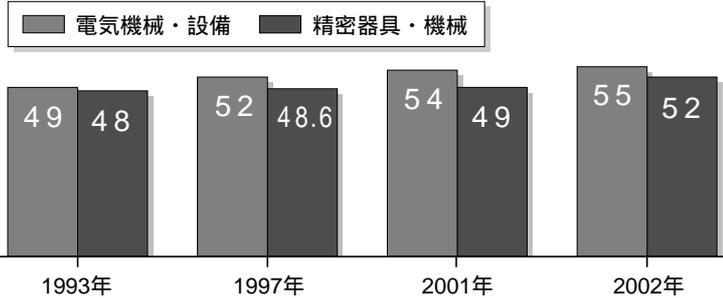
非現業労働者の割合、1996～2003年 (%)



出所：米労働統計局

日本

二つの金属関連部門における非現業雇用、1993～2002年 (%)



出所：賃金構造基本統計調査、厚生労働省



グラフィックス：エリン・ブランダー

を示すことが多い。使用者は、非現業労働者が組合に加入しないことや、労働協約ではなく個別契約に基づいて雇用されることを好む。国によっては、これらの労働者の組織化を妨げる法的制約もある。

そうは言うものの、非現業労働者は地位の高い者も含めて、今や自分たちも生産労働者と同様に経営上の意思決定の影響を受けやすくなっていることに次第に気づき始めている。生産労働者とまったく同じように、非現業労働者も底辺へ向かう競争や人員削減に引き込まれており、仕事が海外に移されている。非現業労働者は、コスト削減の論理がもはやブルーカラーとホワイトカラーとを区別していないことを学習・経験し始めている。生産労働だけでなく熟練職務も外部に委託されており、たとえブルーカラー労働が外部委託される場合でも、生産関連活動の多くの非現業職務が同時に失われている。

合併・買収によって絶えず産業状況が変化し、グローバル化が技能等級の上位の端にいる人々に打撃を与える中

で、態度の変化も見られる。ホワイトカラー労働者は考え方を始め、会社と距離を置くようになっている。ネオリベラル的な市場急進主義に直面して、ホワイトカラー労働者は援助と権利保護を求めている。ある意味で、IT部門における先ごろの暴落は、例えばスウェーデンで見られたように、この部門で雇用されていた人々を目覚めさせて組合に加入させたという点で、望ましい効果をもたらした。

未組織労働者の組織化は今なお全IMF加盟組織の基本的任務であり、大多数の加盟組織が活動において勧誘を優先課題に定める方針を採用している。労働組合はこのようにして生まれたのであり、今もそのために存在している。したがって、非現業労働者の組織化に努めることはIMF加盟組織にとってますます重要になっている。

非現業労働者にとって重要な問題の例として、次のようなものが挙げられる。

労働時間、仕事と家庭の両立
経歴開発と生涯学習

IMF スペシャル・レポート

ホワイトカラー労働者



グローバル化が次第にホワイトカラー労働者に打撃を与えるようになっていく中で、労働組合に対する態度が変化している。

労働強化、ストレス、極度の疲労
責任の増加に起因する問題を解決するためのメカニズム
報酬制度（業績手当を含む）
アウトソーシング
移動性
年金
平等問題

多くの点で、基本的な関心事は他の労働者が直面しているものと同じだが、アプローチと重点に違いが見られる。したがって、ますます差別化される労働条件、態度、意識・雇用構成のパターンを把握する必要がある。労働組合にとっての問題は、サービスの提供において、より目的に合わせたアプローチと一層の個別化への要求の高まりにど

う応えるかということでもある。

5月12～13日にジュネーブで開かれた先ごろのIMF執行委員会で、「IMFの非現業労働者」に関する方針書が採択された。この文書は上述の事態の展開に関して、労働組合主義の未来と密接に結びついた以下のような数多くの問題を提起している。

これらの事態の展開に直面して、組合はどのような地位を占めるか？

非現業労働者に接触するために、どのような戦略を立てるか？

組合は組織化・交渉戦略や組織機構に、それらの戦略をどのように組み入れるか。これらの機構は妥当で適切か？

不鮮明な境界線

現業労働者と非現業労働者との境界線が不鮮明になっており、この二つのカテゴリーに従って厳密に労働者を分類するのは困難な場合がある。非現業労働者は、事務労働者、管理者、IT労働者、専門技術者、エンジニア、監督者・チームリーダーから経営スタッフに至るまで、多様な人々の集団を代表している。非現業労働者のニーズは他の労働者のそれと異なるときがあり、集団のサービスよりも個人的サービスを重視している。より作業現

場に近い場所で働いていて、労働組合加入が文化の一部になっている背景を持つ非現業労働者もいるだろう。しかし、まったくと言っていいほど労働組織と関連がない者もいる。特に学歴がある人の場合、教育水準が高く年齢が若いほど、労働組合と距離を置く可能性が高い。

非現業労働者は金属産業の全部門に在るが、特にエレクトロニクスとICT、エンジニアリング、航空宇宙、自動車製造に多い。

IMF スペシャル・レポート

ホワイトカラー労働者

これらの労働者は組合の方針決定や活動に参加しているか？

IMFは、組織化、団体交渉、サービス提供に関する加盟組織の目標をどのように支援することができるか？

この方針書によれば、組合は非現業労働者のニーズや期待に応えるうえで適切な存在であることを証明すべきである。非現業労働者は、これまで以上に強く職場で無力感や不安感を抱くようになっているため、代替案の模索への参加に対する関心を深めている。これに関連して、持続可能な開発と中核的労働基準の促進に関する企業の社会的責任とが、これらの労働者を関与させ、組合活動への意欲を持たせるうえで役立つ問題である。

労働組合の対応の目標は次の2点に据えるべきである。

非現業職務におけるIMFと加盟組織のプレゼンスを強化すること。他の部門・分野と同様に、金属産業も組織化・組合強化の課題に直面している。

現行組合員に対するIMFサービスを改善し、組合員のニーズや期待によりよく対応すること。

IMFはアクション・プログラムに従って、ワークショップやセミナーなど、非現業労働者を対象とする活動を実施している。IMF方針書は、将来の活動に関する共通の目

標・勧告を以下のように提示している。

すべての国・地域で非現業労働者の問題に関する意識を高める。

組織化手段・戦略に関する情報・経験の交換を促進する。新しい連帯概念の立案に努め、個人の自主性・自決をより重視しながら集団的利益代表について交渉できるようにする。

国際枠組み協約（IFA）を非現業労働者の組織化手段として利用する。非現業労働者は、組織化に当たって経営側の抵抗に遭ったり、組織化に関して制限的な協約の規定を押しつけられたりする場合が多い。IFAは組織化の余地を開くものであり、そのために利用すべきである。

非現業労働者の組織化に対する法的制約の問題を提起する。これは国際労働機関（ILO）条約に違反している可能性がある。

IMF内部で加盟組織間のコミュニケーションやネットワークを改善する。

IMFの使命は引き続き、伝統的な中核職務と新しいターゲット・グループとを組織化しつつ双方の利益を代表するという調整策を管理することである。

IMFの非現業労働者

いくつかの国々には、専らホワイトカラー労働者を代表する組合がある。一方、非現業労働者が産別組合に加入し、その組合に非現業労働者の利益に対応する特別な部門や支部がある国もある。しかしIMF加盟組織の大多数には、特に非現業労働者を対象とする機構がない。

ホワイトカラー組合は以下のとおりである。

ASIMRA（アルゼンチン）

LBC/NVK、SETCA/BBTK（ベルギー）

フィンランド専門職エンジニア労組（TU、TEK）（フィンランド）

ノルウェー商業・流通労組（ノルウェー）

デ・ユニー（De Unie）（オランダ）

スウェーデン専門職エンジニア組合（SIF）（スウェーデン）

IFPTE（アメリカ）

現業・非現業労働者双方を代表する部門・部署・支部がある組合として、例えば以下のような組織が挙げられ

る。

AMWU（オーストラリア）

CAW（カナダ）

IGメタル（ドイツ）

UAW（アメリカ）

COインダストリ（デンマーク）

SIPTU（アイルランド）

MCA-UGT（スペイン）

FIM-CISL（イタリア）

IMF加盟組織の大多数には、ホワイトカラー労働者の問題を取り扱う専門の部署・部門がない。いくつかの産別組合、例えばAMWU（オーストラリア）やFTM-CGT（フランス）などが、ウェブサイトにホワイトカラー従業員のためのセクションを設けていることも注目に値する。

南アの自動車労働者が交渉



ヨハネスブルク（南アフリカ）：南アフリカ全国金属労組（NUMSA）と自動車製造業使用者団体は現在、南アフリカの自動車部門で働く NUMSA

組合員に関する団体交渉を実施している。

NUMSAは、消費者物価指数の上昇にしか相当しない4.4%の賃上げという使用者案を「恥ずべき」提示と呼び、その他の主張もすべて拒否したうえで、以下のような要求を提出した。

- 15%の一律賃上げ保証
- 3年間の賃金協約

出産休暇中の賃金全額支給

職人1人当たり4人の見習い

人材会社から派遣されて働く労働者を3カ月後に常勤雇用

HIV / エイズ感染者（30日間の病気休暇を与えない）への抗レトロウイルス薬の供給

1回当たり5日の家族責任休暇



NUMSAの職場委員 写真：ウィリアム・マトラ

ニュージーランドで協約承認

ウェリントン（ニュージーランド）：ニュージーランド機械・印刷・製造労組（EPMU）の組合員は、2004年金属・製造業労働協約を承認した。2.9%の賃上げを定める同協約は、国内最大の民間部門産別文書であり、ニュージーランドの製造部門全体の賃金・労働条件基準を規定している。この協約は220社を超える企業の労働者

2,500人を直接的に、さらに数千人の労働者を間接的に代表している。



グルジアの金属労働者がIMFと会合

ゼスタフォニ（Zestafoni）（グルジア）：4月14～16日、財政面・組織面で国際金属労連（IMF）の支援を受けてグルジア鉱山・金属労組（MMWUG）が実施したセミナーに、



国内金属労組4団体から25人の活動家が参加した。参加者たちは世界の民主的労働組合運動について、またIMFとその中核的文書（規約やアクション・プログラム）について学んだ。

グルジアの金属労働者が国際労働運動と直に接触したのは初めてのことであり、活動家たちはIMFに関するすべての情報に大いに関心を示した。グルジアでは「パラ革命」と呼ばれる運動が、組合労働者に産業（特に金属産業）復興への希望を吹き込んだ。

セミナーが進む中で、グルジア労組連盟が、既存の金属労組5団体の合併による統一的金属労組の結成をはじめとする機構改正を目指すことを宣言した。セミナーでのグループ活動で、すべての組合活動家がグルジアの全金属労働者を包含する一つの組合の設立に賛成したが、「このプロセスを全組合機構で幅広く討議し、このイニシアティブを実現するための基礎となる真の決定によって支持すべきだ」との考えを示した。

セミナー参加者全員が、スピーチの中で、労働者の利益（適切な給与・賃金、労働条件・環境保護、社会における労働組合の権威の確立）を求めて闘う組合の意思を表明した。

このセミナーによって、IMFは組織を地理的に拡張し、グルジアの金属労働者はIMFの原則・価値観・基準について学んだ。

This is the IMF

国際金属労連 (IMF) は金属産業における労働者のための組織である。1893年に創設されスイス・ジュネーブに本部がある。現在IMFは100ヶ国、200組織、2,500万人の金属労働者を代表している。

IMFは世界中で金属労働者の活動を強化すべく努力している。2001年の世界大会で採択されたアクションプログラムは、以下の4つの主な項目から構成されている：新しい経済システムへの転換、未組織労働者の組織化、国際連帯強化、人権・労働組合権のための闘い。

IMFの最高決議機関は世界大会で4年に1度開催される。その間、隔年ごとに全加盟組織の代表が参加して中央委員会が開催される。執行委員会は中央委員会から選出された18人の委員によって構成され、通常年に2回開催される。

IMF本部の事務所はスイス・ジュネ

ーブに置かれ、世界的な活動は地域事務所のネットワークで調整されている。

東部・南部アフリカ：南アフリカ・ヨハネスブルグ

南アジア：インド・ニューデリー

東南アジア：マレーシア・クアラルンプール

ラテンアメリカ・カリブ海地域：チリ・サンチャゴ

近年IMFはアフリカ、アジア、ラテン・アメリカの地域・サブリージョナル機構を強化している。これら3地域全体で11のサブリージョンが定期的に会合を持っている。いくつかの国ではIMF加盟組織が「国別協議会」と呼ばれる組織を形成している。

特別な産業部門の活動を調整するために、IMFには以下の産業別部門がある：航空宇宙、自動車、電機・電子、機械金属、造船、鉄鋼、非鉄金属、加えて作業編成のための作業部会がある。



【IMF 地域事務所連絡先】

南アジア地域事務所 (SOUTH ASIA)

Linz House
159-A, Gautam Nagar
NEW DELHI 110 049
INDIA
tel: (91/11) 651 4283
fax: (91/11) 685 2813
E-mail: sao@imfmetal.org

東南アジア地域事務所 (SOUTHEAST ASIA)

No. 10-3, Jalan PJS 8/4
Dataran Mentari, Bandar Sunway
46150 Petaling Jaya
Selangor Darul Ehsan
MALAYSIA
tel: (60/3) 56 38 7904
fax: (60/3) 56 38 7902
E-mail: seao@imfmetal.org

IMF本部 (ジュネーブ) の住所は
2ページ参照

ラテンアメリカ・カリブ海地域事務所

(LATIN AMERICA & THE CARIBBEAN)
AV.Providencia 2019
Oficina 42-B
Providencia
SANTIAGO
CHILE
tel: (56/2) 655 04 74-655 04 77
-655 04 78
fax: (56/2) 655 04 70
E-mail: lacro@imfmetal.org

ラテンアメリカ・カリブ海メキシコ事務所

(LATIN AMERICA & THE CARIBBEAN MEXICO OFFICE)
Ignacio Mariscal No. 45-101,
Colonia Tabacalera
CP 06030 MEXICO D.F.
MEXICO
tel: (52/55) 55 35 36 53
fax: (52/55) 55 35 26 14
E-mail: lacromexico@imfmetal.org

東部・南部アフリカ地域事務所

(EAST & SOUTHERN AFRICA)
Physical address:
10th Floor
The Braamfontein Centre
Jorissen Street
Braamfontein
JOHANNESBURG 2001
REP. of SOUTH AFRICA
Postal address:
P.O.Box 31016, Braamfontein 2017
REP. of SOUTH AFRICA
tel: (27/11)339 1812-339 1825/
6-339 1832
fax: (27/11)339 4761
E-mail: esao@imfmetal.org

CIS プロジェクト事務所 (PUROJECT OFFICE CIS)

Room 211
Str. 2, d. 13, Grokholsky per.,
129010 Moscow
RUSSIA
tel: (7/095) 974 61 11
fax: (7/095) 974 16 22
E-mail: pocis@imfmetal.org

行事日程表

6 月

- 7 - 18日 IMFサマースクール (スイス・ジュネーブ/ニヨン)
- 14 - 15日 IMFカリブ海地域サブリージョナル委員会 (ジャマイカ・キングストン)
- 14 - 18日 フォルクスワーゲン・グローバル・欧州労使協議会 (ドイツ・ネッカーサルム)
- 15 - 17日 IMF 編集担当者会議 (カナダ・モントリオール)
- 24 - 25日 IMF・LACREC調整委員会 (チリ・サンチャゴ)

7 月

- 22 - 23日 IMF自動車部品産業における労使関係と組織化に関するワークショップ (メキシコ・サルチロ/コアヒユイラ)

8 月

- 5 - 6日 IMF・APREC調整委員会 (ニュージーランド・ウエリントン)
- 18 - 20日 IMFラテンアメリカにおける多国籍企業に関するセミナー (アルゼンチン・ブエノスアイレス)

9 月

- 1 - 2日 IMFラテンアメリカ・カリブ海地域の事務技術職労働者に関するセミナー (ブラジル・リオデジャネイロ)
- 8 - 9日 IMF北米地域女性会議 (アメリカ・ピッツバーグ)
- 21 - 24日 IMF金属産業の女性のための訓練セミナーとワークショップ (ブラジル・サンパウロ)

10 月

- 21 - 22日 IMFラテンアメリカにおけるシーメンスに関する会議 (ブラジル・サンパウロ)

11 月

- 9 - 11日 IMF中東欧自動車会議 (チェコ・プラハ)
- 10 - 11日 IMF女性委員会 (スイス・ジュネーブ)

「私はトラブルメーカーとみなされている」

チェコ共和国金属労連のヤン・ウーリル氏は、政府・使用者双方を批判する怖いもの知らずの活動家である。

プラハ（チェコ共和国）：ヤン・ウーリル氏は、謝りながら「スパルタ」というタバコに火をつけた。「しかし、自分のオフィスでの喫煙を認めないのは人権に反する行為だ」と同氏は言った。30年前からスパルタを吸っている。吸い始めたころ、このタバコは値段は安かったが、なかなか手に入らなかった。

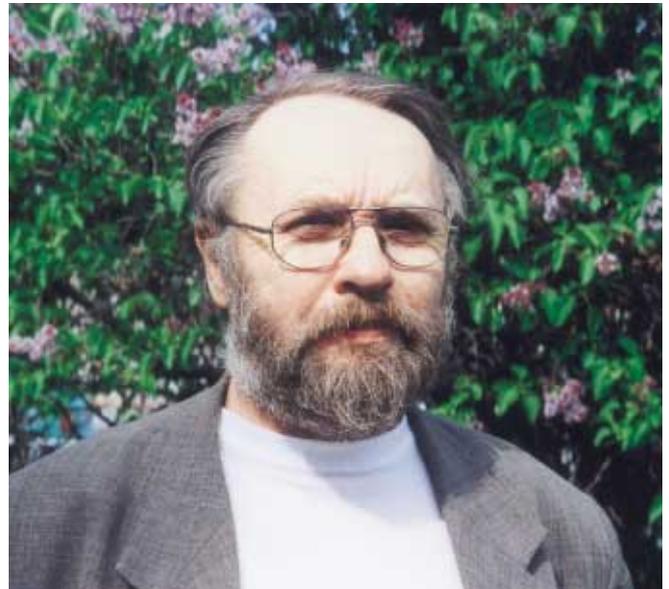
現在のチェコ共和国の多くの物と同様に、スパルタも豊富にあるが価格は10倍である。これはチェコ経済のすべての側面に典型的に見られる。自動車、住宅、それに衣類の価格さえ高騰している。1989年の「ビロード革命」に続いて政権交代が起こるまで、仕事はあったが賃金は低かった。今では賃金・給与は上がったが、失業も増えた。OS KOVOは政府・使用者双方との社会的対話を目指して闘っているが、これまでのところ成果はほとんどない。

1989年、ヤン・ウーリル氏は重工業会社CKDの電気技師だった。同氏は、同社の組合指導者の職務を引き受けるか断るかを3分間で決めさせられた。引き受けたが、一つ条件をつけた。それは「就任期間を3カ月までにすること」だった、と同氏は言う。ウーリル氏は、いまだに元の仕事に復帰していない。

前任者の跡を引き継いだとき、ウーリル氏は自分が目にした状況に慄然とした。同僚の行動を密かに見張って記録することが常習になっていたのである。同僚同士の密告が広く見られた。「とても実態を人に話すことなどできなかった」と同氏は言う。「実態を話していれば、工場で殺し合いになっていただろう」

ウーリル氏は「1989年までは共産主義者だった」と自称するが、今では共産主義を「政治体の癌」と表現する。「だれを頼ればいいのか、なかなか分からなかった」と同氏は付け加える。1989年、「人間の顔をした共産主義」への希望が高まったが、結局その希望は数カ月後に暴力的に粉碎された。

それでヤン・ウーリル氏は、しぶしぶ労働組合活動家になった。15年後の今もなお、怖いもの知らずで政府・使用者双方を批判している。OS KOVO会長という地位にもかかわらず、何を言い出すか分からないため、テレビの生放送への出演を依頼されることはめったにない。「私はトラブルメーカーとみなされており、それを誇りに思っている」と同氏はにこやかに笑う。ウーリル氏が政府と社会民主党のミラン・ウルバン産業大臣を批判



15年前、ヤン・ウーリル氏は、しぶしぶ労働組合活動家になった。

していることは有名である。「私は購買力を高めることによって成長を促したいと考えている」と同氏は言う。それに対して、ウルバン大臣は賃上げを抑制したがっている。

私たちがウーリル氏と会ったのは、労働運動にとって重要な日である5月1日の数日前、煙が立ち込める同氏のオフィスでのことだった。しかしチェコ共和国では、懐疑的なチェコ人の大多数の間で祝典はほとんど行われぬ。プラハでは集会が一つも開かれず、たまたま同じ日に当たったチェコの欧州連合加盟で、いくつか祝典があるだけである。ウーリル氏はため息をつき、「メーデーの祝賀に参加するために工業都市ブルノへ行くには、180キロメートルも移動しなければならない」と打ち明ける。「共産主義時代、国民はメーデーにうんざりしていた」と同氏は説明する。同じ理由で、チェコ人に組合に関与する動機を与えるのは難しかった。OS KOVOの組合員数は減っており、組合に加入する従業員の比率も45%に低下している。

「もっと強力な基幹組織を生み出さなければならないが、まだそのための時間がない」

同氏は欧州連合への加入を、10年間に及ぶ変化を経てチェコ共和国が現実に属している場所 西側民主主義国

を承認する行為と考えている。「だが、私たちは幻想を抱いてはいない」と同氏は付け加える。「多額の無償援助を受けるわけではない。すべてを独力でやらなければならないことを明確に理解している」と同氏は締めくくった。

スティグ・ジュターストローム

ヤン・ウーリル氏の略歴

年齢：60歳
出身国：チェコ共和国
居住地：プラハ
職業：労働組合会長
所属組織：チェコ共和国金属労連（OS KOVO）、組合員数14万人
趣味：手を使って働くこと、大工仕事